

- ★人間番号 早津 博美
 ■カフェ&居酒屋 鳥の歌 店主
 生活困窮者の相談支援員
 ■身長 167センチ
 ■体重 ?キロ
 ■年齢 61歳
 ■性別 男



新潟市沼垂出身。病弱でどもりがちな少年だったが中学のマラソン大会をきっかけに克服。高専時代は学生運動に明け暮れる。自主退学後、東京で日雇い労働をしながら映画や演劇にのめり込んでいく。新潟に帰郷後は、映画の上映会を企画。また東京の劇団を招くと共に、自身も劇団を設立。『劇団 無形舎』は新潟アンガラ劇の礎となる。一九九九年、演劇人の溜り場にすべく、カフェ&居酒屋 鳥の歌をオープン。生活困窮者の相談支援員としても活動する。二〇一三年、鳥の歌を劇場としてリニューアルオープン。

🔥 プロフィール

早津 いいですよ。ここですね。月一回、実験映画の作品発表会を定期的にやっても構わないですよ。

場所代はおいくらですか？

早津 いくらでも相談に乗りますですがね〜！ 大事だよ。定期的に第何曜日とか決めてさ。

まず、早津さんの人となりを…身長から。

早津 一メートル六七センチ。

答えたくないことあったら答えなくて大丈夫なんで。

早津 パスって言えばいいんだね。

体重？

早津 体重…パス。ハッハッハッハッ！

年齢？

早津 六一歳。

あとは…声や話し方？ 声は大きいですね。

早津 元々役者やってましたからね。

出生地は？

早津 新潟市ですね。沼垂の方ですから

ね。生まれたのは。

生粋の新潟人なんですね。早津さんてあんまり新潟ほくないから。あとは宗教？

早津 無宗教。葬式は仏教だけだね。

職業？

早津 職業はいま二つやってるんだよ。ここのお店の店長と、団体職員の相談支援員というのを。ダブルワークなんですよ。

どんな仕事でしたっけ？

早津 生活困窮者の相談支援。お国からお金もらって。県庁の近くの事務所。労協協っていう団体があるんですよ。社団法人で、そこが県から受諾して。もう丸一年経ちますよ。

特殊技能？ 免許とか特技とか。

早津 特技はないね〜。もう、フフフ。でも趣味でやってたお芝居が一番最後までつづいてますね。二十歳過ぎくらいから始めて。学生時代は演劇やったことないんですよ。二十歳過ぎに東京で演劇を観て。一番長くつづきましたね。飽きっぽい性格なのに。

🔥 幸福な少年時代

それじゃあ、ちよつと早津さんの幼少時代から遡って歴史を紐解いていきたいと思えます。

早津 たいした歴史じゃありませんよ。ハハハハハッ！

一番小さかったころは、どんなお子さんだったんでしょうか？

早津 信じられないと思うんですけどね、病弱だったんです。無茶苦茶病弱で。一個覚えてるんだけど、すぐ風邪ひくとお医者さん行って。当時はすぐ注射なんです。お医者さん行くと。でも手に打つところないからさ。

打ちすぎて？

早津 打ちすぎて。お尻に打ってましたよ。だから今でもトラウマで。病院の匂いを嗅ぐと緊張しちゃって。心臓バクバクしちゃって。病院苦手。先生苦手。白衣苦手。

フフフ。そんなに病弱だったんですね。

早津 病弱だったんですよ。もう一つは

吃音だったから、どもりだったから。小学校六年まで。

—— えーっ。いまはこんなに活舌がいいの。

早津 病弱で痩せてて吃音で運動神経ゼ口で、跳び箱もとべなくて鉄棒もできなかったりという小学校時代だったんだけど。小学校時代が一番楽しかったなあ、振り返ると。いい学校だったんだよね沼垂小学校。

—— どの辺が良かったんですか？

早津 他の小学校に比べて図書館が滅茶苦茶広くてさ。本の数も多くて、図書館司書がきっちりいたから。あと紙芝居いっぱい置いてあったのよ。紙芝居をみんなで読みっこしたりとか。もう一つ理科園てのがあってさ。そこに蛇を飼ってたりとかニワトリとかウサギとか。トンビまで飼ってましたよ。

—— 飼えるんですか？

早津 水中動物とかタナゴがいたりとか。蛙とオタマジャクシとか。そういうのを当番で面倒見るんさ。学年ごとで夏休みも何もないのよ。夏休みも当番で

みんな来て、餌やらなきやいけないのよ。

他の小学校にはなかったと思う。でかいんですよ、敷地もでかくて広かったからね。そういう余裕があったんだね。だから図書館はでかくて理科園があって。あと小学校って中学とかと違って制服がなかったでしょ。そういう縛りってあまりないじゃない。規則もあつてないようなものだし。それも居心地よかったんじゃないかなあと思うよ。卒業の時にみんな卒業記念になんか贈るんだよね。うちらね、みんなリヤカー引っぱつてさ、鉄クズや古新聞を集めに行つてさ。廃品回収。それを売つてさ、その金で記念樹なんか植えたんだよ。

—— ちゃんと労働して…。

早津 どっかでバッテリー拾ったり積んだりしてね。それが高く売れたんだよ。

—— ははははっ。

早津 よその廃品回収に置いてあったんじゃないの。それを、こっそり乗つけてさ。フッフッフッ！ そんなことがあつたね。内緒だけど。

—— それはオフレコですか？

根性で!?

早津 だから、走つてがんばりや成績でるわけだ。苦しくても。

—— 根性があつたんですね。

早津 女の子にもモテたいって気持ちも中学になると出てくるわけじゃん。勉強はそこそこできたけどさ、運動神経がないと駄目なんだよ。やっぱ運動神経なんですよ、運動なんですよ。バスケット部が一番モテたの、当時は。野球部もそうだったけど。でも球技できなかったでしょ、運動神経ないから。全校マラソン大会、見せ場としてはチャンスやんか！ 必死になって走つたよ、俺。三百人中、一八番か一九番に入ったんだ。そうするとさ、みんな一目置いてくれるじゃん。それで自信つくんだよね。そうすると、どもりがひとりでに直つちやつて。バドミントン部入つてずつと補欠だったんだけど。体力ついてくると、体格も良くなってくるし。

—— 精神的なところから、どもりも直つていったってことですか？

早津 自信ついてくるじゃん。俺もやれ

早津 小学校の時ね、俺いじめられてたんだよ。女の子から。痩せてさ、どもりでき。小学校の時って女性の方が体格良かったじゃない。怖くてね。女性がね。いじめたいに陰湿じゃないんだよ。いじめられた後で、みんなで仲良く遊んでたからね。いじめるっていうよりも、からかうって感じだからさ。貶めようとか、死ねとか、そういうのじゃなくて。昼休みは遊んでたもんね。手つなぎ鬼したりとかさ。小学校は良かったよね。中学とか行くとさ制服着たりとか、成績表とか出すじゃない。なんか管理されてる感じがするんだよね。いまほどじゃないけどさ。

—— 得意科目とかがありましたか？

早津 小学校の時は理科好きだったんですよ。生物よりも物理系の理科と科学。地学とか生物は中学とか高校行つてもあまり好きじゃなかったんだけど。科学と物理好きだったんだよね。当時、算数もできたからさ。将来は技術者になろうと思つたもんね。



体育会系デビュー

早津 でね、中学入ってスポーツ始めたら、どもりも直つたんですよ。

—— ええっ？

早津 みんなに言つてただけどさ。中学入ると全校マラソン大会つてのがあるんさ。東新潟中学校ね。一五クラスあるからね。一学年男性が三百人いるわけだよ。三百人がどーっと走るからね。三百人中、十何番に入ったんだよ。二十番以内。

—— 滅茶苦茶足速いんですね。

早津 持久力があつたんだよ。バスケット部とか野球部っていうのは短距離は強いんだよ。瞬発力があるから。長距離は苦手なんだよ。

—— 早津さんは何で長距離得意だったんですか？

早津 運動神経いらないでしょ。体操はいるじゃん。跳び箱とか鉄棒とか。逆上がりば運動神経いるじゃん。走るといらないじゃん。ただ走ればいいんだもん。

—— 持久力は何かで培つていたんですか？

早津 根性だけ。

ばできるんだなって。スポーツ苦手だったのがさ、案外やれるし。バドミントン部も基礎訓練大変だったんだよ。腹筋とか、うさぎ跳びとか。ついていったからさ。運動神経ないから、試合には出してもらえなかったけど。補欠だったけど。でも、ついていけたからね。

—— じゃあ、愚痴しかつたけど改革も。

早津 大変だったんだよ。そこで、がんばらなきゃならないわけよ。がんばるとしてやっぱ大変なのよ。がんばらない方が楽だよ。だから小学校の時はずっと楽だよ。そのまんまだったからさ。いじめられっぱなし。どもりっぱなし。痩せて病気がちでさ。中学はホックしなだけで殴られたからね。

—— すごい厳しいじゃないですか。

早津 朝礼が週に一回あるんですよ。月曜日の朝。全員が体育館集まるんだよ。体育会系の先生にホックしないとパーンってはたかれるんだよ！ 厳しかったよ。不良も逆らえなかったね。あと社会の先生は批判的な人だったね、いま思うと。「政府の事は信じるな」って言うて

たもんね。

—— 中学の時はそういうのはなんかあったんですか？ 世の中に対してみたいな。

早津 全然なかった。

—— ないですよ。フッフッフ。

早津 勉強とスポーツを、やっとたんですよ、真面目に。なんぎかったけど。



学校解体！

—— 将来の希望とかあったんですか？

早津 やっぱエンジニアになろうと思っただね。それで長岡高専に行くわけだよ。機械工学のエンジニア目指して。

—— 目標も定まって。

早津 定まって、がんばったんですよ。でも長岡行ってから、政治だよ。時代がそうだったもんね。六〇年代後半でしょ。長岡にいた時が丁度。一六歳から二十歳まで。一八くらいが学生運動が激しいころで。長岡って新大工学部があるじゃない。当時、新潟大学って分かれてたんだよ。工学部が長岡にあつて。教育学部の分校も長岡にあつて。長岡市立

図書館になったところが新潟大学の工学部があったところなんだけど。長岡の工学部って学生運動がなばつてる連中で。うちらも感化されて。一緒に暴れてたんだよ。

—— 暴れてたんですね！ いきなりそうなっちゃったんですね。

早津 先輩達の影響もあるよね。

—— 学生運動って、どういふ運動なんですか？

早津 ペトナム戦争とかさ、アメリカが介入してさ。日本も戦争に協力してたわけだよ。日本の米軍基地が発信基地だったわけですよ。うちらも加害者なわけだよ、ある意味。そういう風に若いなりに考えたわけだよ。いいのかと。ペトナムで多くの人が死んでてね。アメリカに加担していいのかと。当時はペトナム戦争反対だよ。水俣とかの環境問題もあったよね。熊本の水俣があつて、新潟水俣病があつて。利益追求のために庶民は虫ケラのように死んでいいのかと。そういう時代だったんだよ。つきつければるわけだよ。先輩達が教室に来て、

ては厳しかったんだよ。学校のできた経緯がさ、経済界の要請だったわけだよ。大学の卒業生は研究を主にやるわけだよ。工業高校出た人は現場入るわけだよ。中間がなかったわけだよ。設計図をみて指導して、つくっていく時に。職人は技術はあるけど設計図を書き込むことはできないじゃん。研究は大学生がやるわけだよ。いわゆる中間技術者がなかったわけだよ。それが経済界の要請で高専をつくることによって、工業系の中間管理者っていうか、中間指導者っていうの？

コンピューターとか使いこなせる技術が必要なわけだよ。いわゆる現場のハイテクを使いこなせる技術者が必要だったわけだよ。そのためにつくった学校なわけだよ。だから最初から文部省肝煎りだから。政治活動は徹底的にさせないわけだよ。酒飲もうが、女子と遊ぼうが、何しようが自由でいいよ。そこは縛らないよ。ただ政治活動においては、純粋無垢な経営者に逆らわないそういう人を育てるのが高専のもう一つの側面だったわ

けだよ。立て看板も置けないし、ポスター貼るのも許可がいるし。チラシなんて勝手に配っちゃまずいしさ。そういう徹底的に反発してさ、勝手に決り文書いってさ。「検閲反対！」とか書いてさ。教室でピラ配ったりとかさ、学校の中でデモしたりしてたんだけどさ。そうすりやもう処分対象だよ。どんどんエスカレートしてさ、一部教室を封鎖したりしてさ。当然処分だよ。夜な夜な作戦会議やってたり。下宿に集まって。明日、教室でピラ配ろうぜとか。見つかってかけっこしたな。寮に逃げ込んでさ。



日雇い労働者は早く起きる

—— 最終的に退学して。

早津 退学して辞めて東京行って日雇いやつて。山谷って知ってる？ 寄せ場っていつてさ。ドヤ街。日本で三大寄せ場があるんですよ。東京の山谷と名古屋の笹島と大阪の釜ヶ崎。いわゆる日雇い労働者の街だよ。そこに行って。金も何にもないからさ。でドヤで。一泊何百円で泊まれたんだけど。八人くらい入

「お前ら考えてみる！」って。「こんなことしていいのかわ！」って。ある人は「いいんじゃないのー。」って人もいるしさ。いや待ってよって人もいるしね。時代が熱かったってこともあるよね。

—— そういう事もありつつ、学校では技術を学んで？

早津 サボっておりましたけど。底辺すれすれに進級してましたよ。学生運動しながらギリギリで。留年することなく。最後の、卒業の時に学校辞めたんですよ。二十歳のね、五年の春に学生会会長、親分になっちゃつてさ。暴れたんですよ、学校で。形は自主退学なんだけれども、辞めなくても退学になったんだらうけど。高専がつくられた歴史からいうとさ、学校は自由なんだよ。制服もないし。煙草、酒、全部自由だし。教室で煙草吸っても何も言わないしさ。言っても「別なところで吸え。」くらいで退学になるわけでもないし。上級生は二十歳だからさ。寮に入っても酒で鍛えられるわけだよ。先輩に。だから、そういう事は自由だったんだけど。政治活動におい

る。ベッドしかないんさ。小さいんだけどね、みんな風呂も入らないしさ。金もすぐ盗まれたから、腹に巻いといてさ。風呂入る時は帳場に預けるんだけどさ。一泊四百円だったかなあ。で、日雇い行って。朝早く起きるんよ、あれ！ 日雇いは怠け者でゴロゴロしてるうって思ってるも、五時に起きるんよ。五時に起きねえといふ仕事とれねんさ。朝五時に起きて六時には仕事決まるんさ。賃金が高い方が人気あるから、遅く起きると仕事ないし。条件の悪い仕事しかないわけだよ。一七時にあがつて。店は九時に閉まるんさ。飲み屋は。もうちよいやつてるけど。ドヤが九時に閉まっちゃうんさ。早く寝ちやうわけ。で、五時に起きるんさ。公共の職安というセンターがあつてさ。六時にシャッターが開くんさ。みんな前にズラーツといるんさ。手配師で行く手もあるんだよ、もちろん。道路に立っている。手配師だと、ピンはねされたりとかさ。向こう行ったときにさ、タコ部屋に入れられてさ、みんな身ぐるみ剥がされる可能性もあるわけよ。給料払う時

にみんな引かれるわけよ。布団代いくら、毛布一枚いくら、枕いくら、煙草一本いくら。全部引かれるからさ。結局一銭も残らないっていう。そういうパターンがあるとまずいじゃん。そうすると、セーターっていつてき職業安定所みたいのがあるんよ。六時にシャッターが開くんだ。みんな早くいい仕事とりたいたからさ。シャッターの前にへばりつくんだ。へばりついて開くとき、隙間からヒューっと入ってくるんだ。そうすると一面に窓口があるんだ。銀行みたいに。上に札がポンポンポンてかかるんだ。例えば「なんとか建設現場何名いくら」というのがあると、もう偽名でもいいんだ。「田中一郎！これっ！」って言うよ」「はい。田中一郎これね。」って言うてさ。田中一郎でとって田中一郎で働いて、お金もらって帰ってくるんだ。日銭もらってその日の宿代払って飯食って。



映画の肉体と精神・ラブレター

早津 俺なんか映画も好きだったから、映画も観てたんですよ。実をいうと。だ

から三日のうち二日働いて一日遊んでたんだ。週休二日制みたいなものだよ。よくあそこ行ったよ。アテネ・フランセも行ったし、フィルムセンターに本当よくしょっちゅう通ったよ。イタリアのネオレアリズムとか、あの辺もずーっと全部観れたもんね。溝口の特集もやってたし。みんな観て、映画って楽しいんだなあって思ったよ。

—— 映画はいつぐらいから好きだったんですか？

早津 映画は遠かったのね。スポーツやってたから。学生運動やったときに、やることねえからさ、映画の上映やろうぜってことになってさ。ドキュメンタリー映画借りてきたわけよ。当時一六ミリでさ。そうするとやっぱりさ、ドキュメンタリー映画おもしろいんだよね。大島の映画なんかも借りたの。初期のころの作品。おもしろかったのよ。東京に行ったときはさ、日雇いもやってたけど、映画塾みたいのがあったのよ。そこに参加したのよ。そこで松田政男とかさ、布川徹郎とか太田竜とかとんでもない奴が

いっぱいいたのよ。そういう連中と群れながらさ。映画の話とかさ、一本作品撮ったりしてたのよ、当時。影響受けて、当時のアングラセンター行ってさ、実験映画観たり。その時に原将人とも出会うんだ。原将人と出会って、衝撃の出会いでもあったんだけど。『初国知所之天皇』の八時間バージョン上映やってたんだ。

いまは消失してなくなっただけど。彼は八ミリフィルムで持ってたんだ。八ミリの映写機ってスピード変えられるんだよ。作家がわきについてるんですよ。そうすると映写機のスピードを落としたり速めたりするんですよ。それを延々と八時間。受付を手伝ってたから脇で観てたんだ。原将人の自己演出であり、彼の映画論でもあった。原将人は初期の頃は『東京戦争戦後秘話』のときに脚本を担当してるんだよ。

—— 八時間の映画？ 八ミリで八時間、そんなのできるんですか？

早津 ハミリもゆっくりまわすとき、カッカカッカってまわるんだよ。そうすれば長くかかるやんねえ。三分の



フィルムがゆっくりやれば三倍くらいになる。歌もあるんじゃない。「豊穣さにくゆりくゆられ当ても無く〜」。彼のロードムービーなわけだよ。旅をしてるんだよ。ある知り合った人が鹿児島かどこかで自殺して、そのお墓参りから始まるんだね、友人の。で、伊勢神宮目指して北上してくだよね。自分にとっての初国としての映画を。彼は映画塾で講師もやっていたんですよ。その時にメカスの作品とかさ、いろいろ作品を観させてもらって一緒に勉強してきたわけだよ。メルロロポントイの『眼と精神』読めとかさ。哲学の本読んで、映画論語らせてもらってさ。映画というのは肉体と精神があると彼は言うわけ。人間と一緒にわけよ。つまり肉体は何かっていったらそれはフィルムやん！ 魂はそこに焼きつけられた映像なわけだよ！ つまり映画っていうのはさ精神と肉体を伴ったものだっていう風に位置づけてさ。映画論を語るんさ。その映画論のテキストとして現象学のメルロロポントイの『眼と精神』とかさ。そういう本を読まされて。そこ

から彼の独特の映画論をつくったわけ。—— 日雇い労働をしながら映画青年だった？

早津 映画青年だったんですよ。めちゃくちゃ。その時に一番惹かれたのが小川紳介だったんですよ『三里塚』の。当時七〇年代、映画撮ってたから。小川プロに作品を借りて上映して。小川紳介にも来てもらって。話をしたりして。一時、小川プロに入ろうと思ったんだよ。でもさすがにさ。入口まで行ってドアのノックしようとしたときに、やっぱりできなかったね。勇気なかったんだね。—— そういう方と知り合いだったんですか？

早津 師として仰いだわけだよ。作品が素晴らしかったし。『辺田部落』で俺の映画観変わったもんね。

久志田 面識はあるんですか？

早津 何度か会ってるぞ。俺、山形にも行ってるんですよ。上山にも行ってるし。東京には講演依頼も行って。あと実は公演した時のテープおこしもやってるんですよ。校正も入れてもらってた

んですよ。辺田部落の映画を撮ったときに、自分なりの映画論を語ってもらった時に。持って行って手直し全部してもらって、「これ自費出版してもいいですか？」って言ったら、「いい。」って言われて。いまでも原稿持っているんですよ。結局しなかったけど。ガリ版刷り出したけども。あれも、きっちりワープロで打ち込めば。読み応えのある、いまでも通用する話ですよ！ すごくドキュメンタリーについては真理突いてますよ。例えば三里塚闘争ってさ、警察官が死ぬんですよ。反対派と機動隊がぶつかってさ。どっちが死んでもおかしくない状況だったのよ。機動隊が死んでもおかしくない。逆にデモする側が死んでもおかしくない。その時は警察側が死んで、根こそぎ逮捕が始まるんですよ。農民達を捕まえていくんだけど。そういう時でも、スタツフ達はひとつ鉄則があるんだよね。気持ちを共有してるのが、どんなことがあっても我々は農民の側に立つと！ 仮にこれが間違っても我々は彼らの側に立つと！ 中間っていうのはないんだよ。

中立とかさ。そこまでの思いいれがなければ映画は撮れないと。ドキュメンタリー映画は。徹底してるわけですよ、小川紳介は。戦う農民の側に立ってるわけだよ！ で、記録映画はラブレターだっていうんだよね。俺から渡すラブレターだと。そこまで惚れこまなくてはいけないという、対象に対して。惚れこんだ側が悪事やろうが何やろうが惚れてんだから！ そうでしょ!? そこまで徹底して映画は撮るって言ってたね。



帰郷・自主映画運動

早津 で、同時にさ。当時は映画も音楽も芝居も一緒だったんだよね。重なり合ってたんだよね。文学もそうだけど。あの時代って。いままでの既成のものから変わってきたわけでしょ。当たり前のものが当たり前にならない。ビートルズが、ロックが出てきて。映画だって、ヌーヴェルヴァーグが出てきて。そして演劇でいえば小劇場が始まるわけじゃないですか。唐十郎とか寺山を筆頭にしていね。舞踏の土方巽がでてきて。みんなそれぞれ

れ絡まって出てきている。別個じゃなくて、影響しあいながら。そして映画を観ながら、同じ仲間達も演劇観に行ってたわけですよ。そうすると俺も全然興味なかったんだけど、観にくわけですよ。そう言われるとき。で、やっぱり感動しちゃったんですよ。唐十郎に感動し、寺山修司に感動し。黒テントの佐藤信に感動して。その後出てくる流山児とか山崎哲とかさ。沈黙劇をつくった太田省吾とかさ。そういう第二世代も含めてさ。どんどん惹かれていくわけですよ。そうすると演劇の方が楽しかったよね。映画よりも。生々しくてさ。—— 演劇っていうのは、観るだけじゃなくて？

早津 その時は観るだけ。ずっと。東京ではね。ワクワクし緊張してたね。役者は乞食ですよ。差別用語で悪いけど。やるようになったのは新潟帰ってからのんですよ。向こうで知り合った人が新潟公演やるから手伝ってくれねえかって頼まれて。場所借りて、チケット売って。仲川 東京は何で離れたんですか？

早津 こっち帰って来ようって思ってたし、自主映画運動やりたかったのよ。映画との関わりがやりたかったのよね。映画撮るのは才能ないって思ってたから。撮ることはないって思ってたけど。でもドキュメンタリー映画も実験映画もそんなんだけど、映画っていうのは観せたところで完結するわけですよ。完結っていうか出来る上がるわけじゃないですか。つくっただけじゃ映画ってならないわけじゃない！ 観せるところまでやらなきゃ映画にならないわけですよ。そうすると観せるところに関わっていきたくて思ってたわけよ。地方都市ではなかなか観れないわけだよ。誰かがやらないことにはさ。ドキュメンタリー映画なんかはさ。それで当時、ドキュメンタリー映画ずっとやって。あと大林の初期の頃の作品とか。森田芳光の『ライプニッツ・茅ヶ崎』っていう八ミリ映画があるんですよ。そういうプライベートフィルムみたいな。映画館にはかからない。あと、ポーランド映画祭もやっただよ。当時、東京のグループが自分達で輸入した

んですよ。『バサジェルカ』とかさ『地下水道』とかさ『尼僧ヨアンナ』とか。一〇本くらいセットにして上映会があったりして。それで映画祭とかしてたんですよ。

——新潟では上映会をやりつつ、仕事っていうのは？

早津 いままでいうフリーターみたいなもんだね、アルバイトしながら。いっぱいしたよ、アルバイトも。ビルの配線工事とかさ、土方とかさ。それをやりつつ自主映画運動を。小川紳介の映画は一貫して全部やったからね。そうすると電話くるんですよ、小川プロのスタッフから。「早津さん、現像代がないんだよ。一〇万なんとかありませんか？」って。「一〇万ないッスよ。」って言ったから「五万でいいですよ。」って。なんとか五万都合つけてさ。返ってこないんだけど、もちろんね。フッフッフッフ！全部、小川紳介やりましたよ。最後までつきあったからね。小川プロと。ただ客入らなかったね。俺はそういうの苦手で才能ないんだわ！ やるとこまでやるん

いうのやってたわけだよ。それも物足りなかったからさ。だから全然参加者がさ、酒の席で会った人間ばかりだから！ 勢いで。来た人達とテント芝居やって、打ち上げの後、飲むやん。その時に「やろうで〜」とか、酒の席で言っ。誰も経験無いんだよ。芝居の経験。長岡に高専の時の演劇部の先輩がいたから「Kさん、演出お願いしますよ！」「やるか！」とか言ってるさ。誰も何にもわかんねんさ。

——劇団名っていうのは？

早津 一回目がね、『森蘭丸とみどりの一座』。それは一回で終わって。それは、ほとんど宴会の延長線で行ったみたいなもんだっただけ。今度、劇団つくってやろうねってことで、『演劇集団 俄(にわか)』を始めて。その時やった芝居が清水邦夫の『泣かないのか？泣かないのか一九七三年のために？』という。ホモの一团が、銭湯っていう設定の舞台上傷つきながらいるんさ。その傷つきながらっていうイメージが、機動隊に殴られ

だけど。がんばるんだだけさ。一応さ。

——場所はどこでやってたんですか？

早津 場所はね。当時、公会堂でもやった覚えあるんだよね。音文のところ。客いっぱい入れようと思って公会堂でやったんだけど、客入らなくてさ、情けなく。あとね、福祉センター、駅前。いま、東横インのビル。あそこにホールがあったんですよ。芝居もやったんだけどさ。潰れた山ノ下映画館借りてやったこともあるしね。あと新大の学祭と一緒に手を組んでさ。朝九時から夕方の六時まで延々とやってたかな。これは商業映画だったけど。仲間と四〜五人で行ってたね。



劇団 無形舎

早津 それでね。やっぱ芝居が楽しかったんだね。頼まれて呼んだりしてたじゃないですか。そうすると、チケット売りとかっておもしろくないんだよ。やっぱやりたくなるじゃない！ 新潟にも劇団があったんだよ、いわゆる新劇系の劇団が。『新潟小劇場』とかさ。『かもめ』

て傷ついたっていう、ねっ？ その、デモ隊のイメージと、ホモ一团が実はSMショーのホモ一团だったんさ。SMショーで傷ついたっていうのと、ダブリ合わせなんだけど。清水邦夫は戦いの中で傷ついたっていうイメージ。もう七三年だから学生運動も収束してる時代だから。そして風呂のシーンがあって。全員もちろん銭湯のシーンだから、裸じゃなかきやおかしいじゃん。全員男集団裸なわけよ。で、チンチンだけやっぱ捕まるやん！ しょうがないからタオル一枚だけで前だけ隠して。ケツはね、見えても捕まらなかつたのよ。やっぱ性器がまずかつたんだね。前だけ隠して、全員が。一七〜八人くらいの集団が入ってきて。お風呂つくったんですよ。そうして、水ちゃんと入れて。お風呂も入って。洗い場ではさ、SMショーが始まるんさ。口ウソクショーとかさ。鞭打ちショーとかさ。これじゃ、ちよっとパワーがないかなと思ってるさ、台本になかったんだけど、生きたニワトリ買ってきて、一場面ごとにニワトリの首を切り落としてたんさ。

とかさ。あったんだだけさ、全然肌合いが合わないわけよ。アングラじゃないからさ。アングラで始まってアングラで終わってっていう人だからさ。でも全然芝居歴ないじゃん、やる側はさ。見よう見まねでさ、最初さ、やりましたよ。唐十郎の芝居を最初。あつ『ジョン・シルバー』だったなあ。そうだよ、『ジョン・シルバー』だったんですよ！ やったんだよ、福祉会館で。駅前のところで。

——早津さんが立ち上げたんですか？

早津 何人かと一緒にね。『みどりの一座』、『森蘭丸とみどりの一座』っていうのがあったんですよ。七四、五年くらいだったかな。生バンドつきでさ。

久志田 『かもめ』もその頃すであっただんですか？

早津 『かもめ』の前って何だったっけ？

昔一緒だったよね。『かもめ』と『青い薔薇』かなんか。あと『新潟小劇場』っていうさ。ちよっと新劇で、別役美とか清水邦夫をやった劇団があったんですよ。もっと古典的な新劇やったのが『かもめ』なわけだよ。チェーホフとかさう

——はははっ！ すこいことしますねえ。

早津 食べなきゃまずいなってことで、終わった後で食ってね。打ち上げで。リハールで、ゲネプロで一回殺して。三公演したから五羽くらい殺したよ。あと、あれ走るんだよ。首を落とした後。で、ラストシーンがすこかったのよ。銭湯で蹴破って出て行くシーンなんですよ。客席に向かって銭湯つくって、こういう舞台だとこちにお客さんいるじゃない。ここが舞台じゃない。銭湯はドンとあるでしょ。最後は蹴破ってここがボタンと開くようにつくったのよ。水がプラインで流れるんさ！ お客が濡れようが何しようが知ったこっちゃねえと。喧嘩売られたら喧嘩買おうよってことで。銭湯を蹴破って水がフワーツと流れて去っていくっていうシーンなのよ。

——どこでやったんですか？

早津 寄居浜。護国神社まっすぐ行くじゃないですか。海に突き当たった右側のところ。変電所みたいのがあって、空き地みたいのがあるじゃん。あそこ貸してもらってやったんさ。

—— 人は入りましたか？

早津 まあまあ。でも入ったって一回あたり百人。でも三回やって三百人くらい入ったんじゃないかなあ。三百までいかなかったのかな。二八〇〜九〇くらい。

—— 評判は？

早津 ……さあねえ。評判はどうでも良かったね、我々は。はっはっはっはっ！まあ、引く人もいたよねえ。正統派から見れば引くよね。それをやって、その後、劇団が分裂して。ひとつは『俄』として残るんだけど。これは公演の時だけやろうよってことで、プロデュースで。俺はそうじゃなくて。批判もあるわけじゃん「演技力もないのに勢いでやって」とか。悔しいからさ、ちゃんと基礎練習もやって発声練習もやって。日ごろ練習して公演をやるうってことで『劇団 無形舎むぎようしや』と二つに分かれて。それで、うちの方は練習しながらやって。一年一本づつやったかな。当時ね。テント芝居中心にやってたんですよ。

—— それは、オリジナル？

早津 書く人がいなかったから。一本か

二本はお願いしたんですよ。未知座小劇場ってテント芝居が来てたんですよ、その座長さんにお願いで書いてもらいましたね。あとは既成の台本でしたね。

北村想好きだったんで北村想とかね。北村想の『ハリマオ』やってるんだけどね。テントでやったんですよ。いまの日航ホテルのところ。あそこにテント張って。すこかったんだよ。テントって真中に花道つくるんだけどさ。穴を掘って板をのけてさ。途中で花道がパーンツ！とフタが開くとさ、地下から人がワーンと！あとタンポンも出てくるんさ。生理用品のタンポン。タンポンがキーポイントで、白い骨のイメージもあるよね。ここにタンポン入れたまま洗濯したらさ、お袋が「なんだこれはっ！」って。

—— 劇団員は何人くらいいたんですか？

早津 公演する度に最低でも十人はいるから。一二〜三人。でも、入れ替わりもあつたよね。

久志田 シダさんはいつくらいからいたんですか？

早津 シダさんは後半だよな。

画かな。

—— 小川さんといいますと？

久志田 文化現場の。水と土の芸術祭の小川弘幸。

早津 天寿園の職員だったんだね。市に売る前。だから今は、このお店やってから芝居何もやってないね。丸一四年になるんだけど。一四年お芝居やってないってことだよ。まあ、呼んでチケット売るのはやるけども。うちらが主体的にやるお芝居っていうのは。

早津食堂↓鳥の歌

久志田 早津食堂はいつ始めたんですか？

早津 早津食堂はね、三〇なってからだったかねえ。

—— 早津食堂？

早津 いまでも自宅にできるようになってるんだけどね。今はゴミ置き場になってるけど。いずれそこに戻ってって思ってるんだけどね。今度、鳥の歌を劇場にするからね。

—— 元々は早津食堂っていうのを始め

—— えっ。シダさんもいたんですか？

早津 そうなんです。そのうち景子さんも入ってきて。新大劇卒業されて、入団して。その後、シダくんが新聞みて入ってきて。二人が意気投合して、出て行ったんだけどさ。

—— 『無形舎』だったんですか？

早津 『劇団 無形舎』だったんです。古町にWOODYっていうライブハウスがあつたんです。考古堂の上。あと山ノ下の潰れた映画館。野外公演。やったことないのは劇場だけだったね。

—— フフフツ。劇場では何でやらないんですか？

早津 だって火使えない、水使えない。みんな禁止だろ！人の劇団のアトリエとか使っても許してくれたもんね。あそこがひどかったんだ。天寿園さ、劇場があつたんです。入口のところ。いまでもあるのかな。まだ小川さんがいたころ。天寿園に劇場があつて、つくったばっかだった。そこで芝居やらしてくれて。その時は未知座小劇場の人が書いてくれた本だったんです。そこでトラックに

たんですか？

早津 いろいろフリーターやって。食堂をやるわけ。

—— 料理は得意だったんですか？

早津 全然。見よう見真似で。なんで食堂始めようと思ったんですか？

早津 まあ、手取り早かつたのかな？結構いい加減なんさ。

—— あははははっ。

早津 考えてない。先のことねえ。一時ねえ、何でも良かったんだよねえ。

—— フフフツ。

仲川 料理勉強したりとかもなかったんですか？

早津 アルバイトで色々やってて、見よう見真似だよな。

—— じゃあ、早津食堂やりつつ無形舎やりつつっていうのがつづいたんですか？

早津 うん。お芝居が一番つづいたよね。

久志田 早津食堂と鳥の歌は同時期にあつたんですか？

早津 あつたねえ。

久志田 それは何で鳥の歌つくろうと思っただけですか？

早津 やっぱりね、実現しなかったんだけど、演劇とかやってたから。アーティストが溜まる場所っていうのが中々なかったから。いまはあるかもしれないけどさ。一軒くらいあってもいいのかなあって思っただけ。開いてみたら誰も来なかったねえ。

—— フフフツツ。

早津 来ないっていうのは…若い人ってね、わざわざ飲んで演劇論戦わす人っていねえんだよね、いまな。若い人はね。そやる？

仲川 そうかもしれないですね。

早津 もう一つ気がついたのはさ、結構、今の劇団は疑似ファミリーのイメージがあるんだよね。仲良しクラブじゃないけども。みんなで仲良くしながらねえ。そうすると家飲みで終わっちゃうんじゃない？ みんなで仲間内で飲んで。和気あいあいとして。俺らの時代っていうのは演劇論で喧嘩してたからさ！ それが普通だと思っただけよ。ここの店でそういう

のが始まるかと思っただけ、違ってたね。読みがね。あつはつはつはつ！

—— 鳥の歌はいつ始めたんですか？

早津 九月で一四年になるから。

久志田 一九九九年。

早津 そうやん。

—— 鳥の歌ができるまで演劇はずっとやってたんですか？

早津 一番つづいたねえ。飽きっぽい性格だけど。二三年くらいかな？ 鳥の歌はさ、一四年目で方針変えてさ、劇場にしようかと思ってるの。劇場にすれば終わったあと、少しは飲んでくれるかなあと。

—— つくった時から、こんな感じだったんですか？

早津 ここ何にもなかった。小上がりだけあったんですよ。囲炉裏が切ってあって。あとは土間だったんですよ。骨董品屋だったみたい。最初、オーナーは金物屋だったんですよ。その後、金物屋が別なところに移って、変な右翼のじいちゃんに貸してたのよ。それがね、ここで骨董品屋やって、その後は空いてた。そこはアルミのサッシだったんだけど全部

とっばらって、手づくりで。安達さんとか、山ちゃん、三、四人でつくったんですよ。

久志田 美香さんはその頃いたんですか？

早津 美香ちゃんはいない。美香ちゃん、つくってスタッフ募集の時に初めて出会ったのよ。

—— 安達さんは、その時は？

早津 安達さんは知り合いだったんですよ。劇研のときから、無形舎を手伝ってくれたんですよ。その時から感心しててね。彼女の献身ぶり、あとね女性なのにトンカチがうまかったのよ！ 大工仕事っていうか舞台装置をつくるのがさ。それも感動しちゃうってさ。

仲川 長い付き合いなんですか？

早津 彼女が新大劇研の時からね。劇研でテント芝居やったこともあったしね。第三エロチカの川村の芝居やりましたよ。新大の第一食堂の前にテント張って。だから結構我々の影響も受けたのかなあって思うんだけど。

—— すごくいですね。

早津 下越婦人会館でも限りなくテントに近いセットを組んでやりましたもんねえ。

—— 安達さんを早津さんが育てたみたいなんですか？

早津 いや、違う違う違う！ 俺が育てられました。安達さんには、はい。もう感動した、安達さんには。こういう根性のある学生もいるんだなあと。女性であつてもね、男勝りのトンカチやりましたもんね。

久志田 そう考えると演劇の溜り場にはならなかったけど、わけのわからないゴツタ煮の溜り場にはなってる気がしますよ。堀川さんが来。

—— 堀川さんとは昔から知り合いだったんですか？

早津 そう。高校生の時から。

—— ええっ!?

早津 俺が二十いくつの時、彼女高校生だったんだよ。堀川さんは、映画とか観に来てくれたんだ。自主映画の。堀川さんとは長いんさ。まあ、溜り場というか、喧嘩譚々やるような場になればいいなあ

と思っただけ、そういう人はいなかったね！ 他所まで行って飲もうっていうのがないんだね。劇団の若い人達は。

—— 五十嵐劇場は来てたんじやないんですか？

早津 五十嵐劇場はやっぱ変わったよね。安達さんとか、伊藤さんとか、やっぱりそういう…テントが好きなんじゃないのかなあ、基本的に。相性一番良かったもんね。協力してもらったし、あそこでも公演したことがあったかな？



貧困・差別・怒り

—— 早津さんのもう一つの仕事の生活困窮者の支援についてなんですけど。

早津 学生運動やってる流れもあって、敗北したんだけれども思いはあつて。演劇やってた時に、韓国とか朝鮮にも興味があつたから、いつか行ってみたいなって思ったときにさ。向こうの民俗芸能とかさマダン劇とかあるのは知ってたからさ。一回観にいきたいなあって思ってたんですよ。そしたら、ある作家が

ね。文芸誌読んでたらさ、すぐね、民俗芸能そのものにさ、興味示すっていうけど、それでいいのかね。もっと社会の矛盾も含めてね、トータルの中でそういう民俗芸能に出会うならいいけども、そういうところだけピックアップして、韓国の民俗芸能はすごいとか言うのはさ。ナンセンスやんと！ 韓国の作家が書いたのをさ、文芸誌みたいので読んでさ。そうやなあと。そういうことを、社会的なことを認識し、知った上で韓国の演劇なり民族芸能なんかも出会っていかない。純粹に民族芸能と出会うなんてナンセンスだなあと思ってたんだよね。あと、ずっと昔から気になってたことがあつて。それは被爆者の問題で気になってることがあつて。それは在韓被爆者について、日本で被爆して、戦後韓国へ帰るわけですよ。で、向こうで治療受けてたかと思つたら、何にも治療受けてなかったし。日本政府も何も保証してなかったわけよ。その実態調査してる市民グループが大阪にあつて。それで一度一緒に韓国に連れてってもらったんです

自分人間

早津さんの
インタビュース
自己分析を
してみる

大抵の人間が
本来の場がまま
なのは情報が
多すぎて処理速度
が間に合わないため
かもしれない

また早津さんは
人に共感する
能力がさう
よいと思っ
たの海馬を
自分のものと
感じられる
よう努め

早津さんは損得勘定
をきめて情念によって
動いているような気がした

こうして分析してみると
思い描く人間像とは
違えど自分は自分で
人間らしいのかもしれない

臆病
計算高い
人づきあいが
苦手
今回の
分析結果

対して僕は
計算がさ
入るので
行動まで
いかない場合が
多い

たいへん
どう
ですか

対して僕は
計算がさ
入るので
行動まで
いかない場合が
多い

本質的には思いやりがなく
自己中心的な人間と云える
のかもしれないが円滑に
生きていくために処世術を
駆使しているのだから

オチ
ななし
あたから
嫌んでみようかな

人間の
あまりに
人間の

本質的には思いやりがなく
自己中心的な人間と云える
のかもしれないが円滑に
生きていくために処世術を
駆使しているのだから

オチ
ななし
あたから
嫌んでみようかな

対して僕は
計算がさ
入るので
行動まで
いかない場合が
多い

たいへん
どう
ですか

よ。一週間くらい韓国の馬山にさ。そこを拠点にして、近郊の人達の実態調査をやったんですよ。通訳連れて行って。うちらが聴きとりやって。その時に彼らの貧困さに愕然としてね、パンツなんてポロポロレヨレシなのよ。金がないわけなのよ。当時、韓国も農村地区は貧しかったからさ、それプラス被爆してたわけでしょ。体がダルくてなかなか仕事もできないわけだから。周りからは怠け者と言われるし。そういうこともあって。差別も受けてたわけだよ。そういう悲惨さを目の当たりにして、日本政府が何も保証してないことも見て、それはやっぱり怒りもあって。そんなところでね、被爆者の支援とかもして。その流れの中で新潟にいる外国籍住民の問題のことも偶然出会って。それで、結局いまは新潟の中にある外国籍の方の人權とか生活支援の新潟ヘルプの会に入ってるんですよ。それと山谷にいたから。ホームレスとか野宿者に出会ったから。思いがあったから、それも新潟で、越冬友の会というNPOをやって。その二つが加

わったのかな。二〇年近くやってるんだけど。

(二〇一三年八月二九日 鳥の歌にて)

★聞き手 基村 英行
★協力 大野 喜子
久志田 渉
仲川公二郎

鳥の歌

新潟市中央区本町通2-191
(025) 228-3080
18:00 ~ 23:00 (休休日/日・祝祭日)

イトーヨーカドー丸大
いずみ湯
Shell 石油
芸術文化会館

生産のねらいは人間にあって、決して利潤にあるのではない。 L. モホリ＝ナギ

「もっともっと速く」は「もっともっと非人間的に」なることなのです。

エクナット・イーシュワラン

親切という特質が、われわれを岩や木切れや金属から区別している。

フィリップ・K・ディック

こんな自然に反する人間たちに身をまかせてはいけない。

こんな機械の頭と機械の心を持った機械人間に。 チャールズ・チャップリン

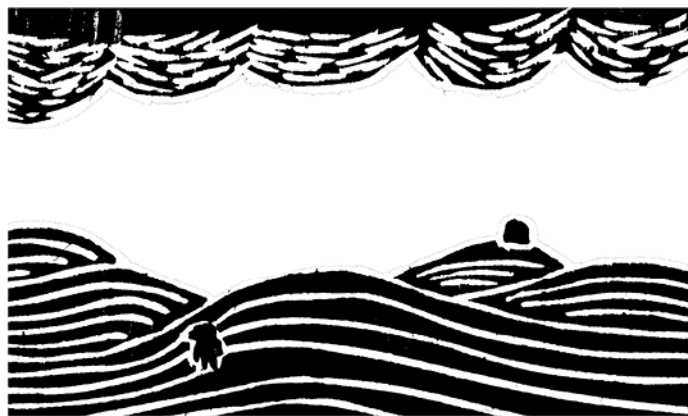
編集後記

●人間をテーマにしたインタビュー誌、一号めはカフェ&居酒屋 鳥の歌の店主、早津さん。知人の中で一番人間くさくて、お世話にもなっている。その割りに早津さんのことを何も知らなかったのが今回インタビューさせてもらった。

●自分とは真逆のバイタリティと、行動力、社交性を持った人間だと実感。早津さんを突き動かしているもの、早津さんを早津さんたらしめているものを深く掘り下げることはできなかったけど、経歴とやってきた事の一端を聞いただけでこのボリューム。充実した記事になった。

●そういえば鳥の歌の由来を訊くのを忘れてしまった。劇中で殺した鶏への鎮魂歌かな？

●インタビューしたのは八月二十九日。だいぶ間が空いてしまった。新装開店の宣伝になればとも思ったが、あまり貢献できそうもなく申し訳なく思う。



人間番号

■平成二五年一月二日発行

■編集・発行人 基村 英行

■発行所 ゲシユタルト人間研究集団

○九〇・六一四一・八三八六

karafutoneko@gmail.com